

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

特集 多彩な夏

学園祭 (P.4-6)

スペインからの学生を迎えて (P.7-9)

- ・ スペイン便り (P.10-11)
- ・ 与論島便り (P.12-13)
- ・ 保育実習Ⅱ (保育所) の挑戦 (P.14-15)
- ・ 「月歩学歩学生委員」 ページ (P.16-17)
- ・ !hot news! (P.18)

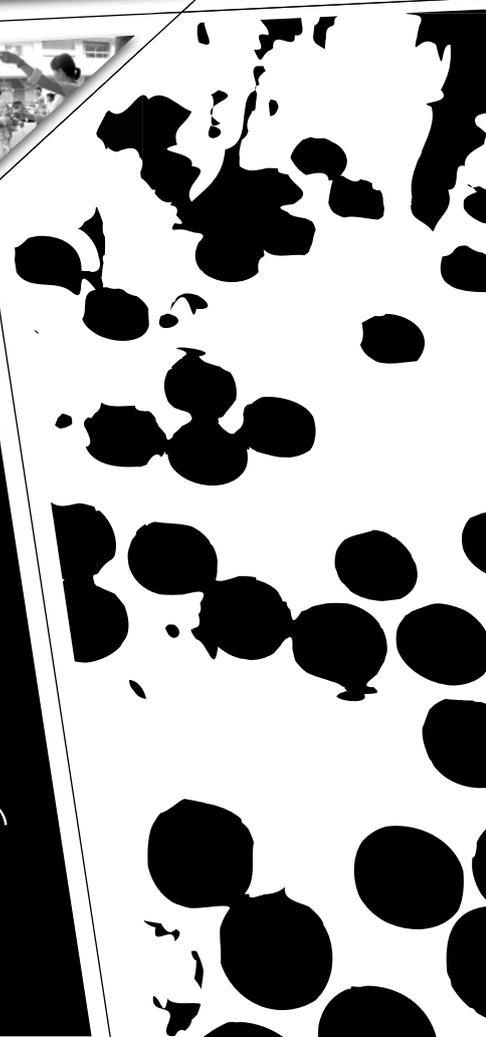




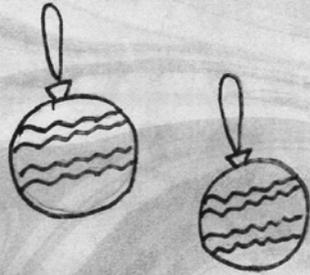


いろいろ
いろいろ
いろいろあっていい
いろいろあるからいい
いろいろな人がいるからいい
いろいろな人生があるからいい
いろいろのどのいろも 尊くてうつくしい

そんないろいろをちょっぴり紹介する
月歩学歩第4号です



特
集



め
が
く
し
く
え
ん
し
た
し



開催日
8月1日(土)
開催時間
10:00~15:00



学園祭

山野 良一

例年通り、夏真っ盛りの時期に学園祭が開催されました。次ページに紹介される学園祭実行委員長の小倉さんの文章にもありますが、学園祭の全体準備のために、実行委員、学友会のメンバーは大変な思いをし、うまくいくのかヒヤヒヤ状態だったと思います。特に、中心メンバーである2年生が6月中、幼稚園実習のために全く動けないことも大きな要因だからです。

その中で、今年も明德らしさがあふれる企画が盛りだくさんでした。明德の学園祭の特徴は、子どもたちや家族が楽しめる企画が多いということ。各企画を練った、各サークルやゼミもそのことを念頭に置きながらやっていたように思います。子どもたちや家族の皆さん、楽しんでいただけたでしょうか。

実行委員長を務めて

小倉 美咲（2年）

私が委員長を引き受けたのは、友達からの「やってみない？」との言葉でした。初めは、大変だろうな、などマイナスなことばかり思っていました。ですが、誰もやらないならやってみようと思う気持ちもあり頑張ろうと決断しました。

実行委員を集めるのも遅く、もっと早くからやっておくべきだったと思うことが多かったです。6月には教育実習Ⅱ（幼稚園・3週間）もあり、なかなか思うようには進められず、休日に集まり話し合いをした時もありました。本格的に動き出したのは、7月頃からでした。文化祭までの期間はとても早く感じあつという間に当日になったと思います。

保育の学校ということで、子どもも数多く足を運んで来てくれ、楽しんでいる様子が見られました。特に、ステージの前でノリノリな男の子2人が印象的でした。田中ゼミを中心に行った盆踊りでは、全力で踊る人が多くとても楽しかったです。学友会主催の「大食い大会」や、「ラムネの一气飲み大会」のイベントもあり、優勝を目指した必死な姿も見られました。反省点はたくさんありますが、みんなが楽しめた学園祭だったのではないかと思います。

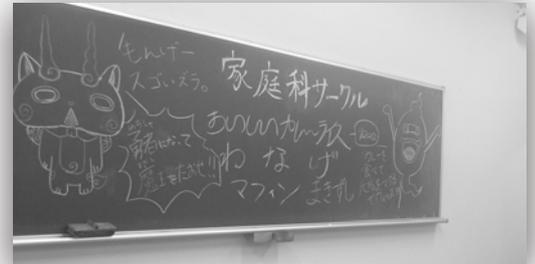
実行委員長とは、何をしなければいけないのか、どのような立ち位置でいなければならないのかたくさん悩んだ時もありました。他の関係者との連携をとるのが難しくたくさん話し合いをしてぶつかった時もありました。イメージしていた通りマイナスの事ばかりで、「やめたい」と口にした時もありましたが、苦しいのは私だけではなく、各係が頭を抱えながら頑張っている姿を見て、弱音を言っている場合ではないと頑張ろうと感じました。

学園祭準備では、汗を流しながら遅くまで準備をしている人や朝早くに集まって活動をしている人が多く、陰で動いている人たちがいたからこそ、当日は、子どもたちも楽しめた学園祭になったのだと思います。その日を迎えるまでは、大変なことだらけでしたが、その大変なことは言葉では言い表せないくらい私にとって貴重な経験になりました。

そして、実行委員長を最後まで諦めずにできたのは、支えてくれた先生やメンバーがいたからです。学校の大きな行事のリーダーになるのは、辛いことのほうが多いですが、遅くまで一緒に準備をしたり、気にかけて声をかけてくれたりと、周りの助けや支えがあったからこそ、学園祭が出来たのだと思います。

今思うのは、実行委員長をやってよかったということです。これで、終わりではなく、来年にも繋げられるようにしたいです。来年には、もっと参加をしてくれる人が多くなると嬉しいです。

たくさんの人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



今年も、「わくわく体験研修」でお世話になっている富山県南砺市利賀村の方々、普段からお世話になっている“まあい広場”や“父の樹園”、“みらい工房”の皆さまに来ていただきました！
ありがとうございました！



学園祭の写真特集は19ページに続くよ！

特集

スペインからの学生を迎えて

明石 現



昨年に引き続き、わくわく体験研修「スペイン」における相互交流企画として、7月25日から8月3日までの10日間、北スペイン・サンタンデルから「アタウルフォ・アルヘンタ音楽院」の学長でありピアニストのハビエル・ラボレオ氏の引率のもと6名の学生たちが来日し、短大学生、教職員たちと交流を持ちました。

滞在期間中は、昨年のわくわく体験研修でスペインを訪問した44回生の方のご家族と今年9月に訪問する45回生のご家族、そして短大の教職員にホームステイを受け入れて頂き、それぞれのご家族との深い交流を得て、充実した毎日を送ることが出来ました。また、鎌倉、皇居、歌舞伎座、日光等の観光を通して日本の文化に触れて頂きました。何事にも興味を持って積極的に質問をされていたスペインの方の姿が印象的でした。

7月30日にはスペイン国営のセルバンテス文化センター東京において、「スペインと日本、音楽の出会い」と題して交流コンサートを行い、スペインの方のピアノ、ギターの演奏に加え、明石ゼミ、今年のスペイン訪問のメンバーによる手話合唱も披露しました。互いの文化を共有する深い体験が、両国の学生の心に響いた感動的なコンサートでした。翌日には短大に隣接する附属幼稚園のホールでも同様にコンサートをさせて頂きました。この交流が両国の学生たちにとって、今後の人生の確かな道標となってくれることを願ってやみません。

そして、この交流は多くの方々のご協力の上で成り立っています。この場をお借りして、お力添え頂きました皆様に、心よりお礼申し上げます。

Bienvenido Japón. (ようこそ、日本へ！)

森 誉太 (千葉明德短期大学附属幼稚園勤務：44回生)

7月25日から8月3日までの約10日間、スペイン北部にあるサンタンデルという街の音楽院生6名と学長のハビエル先生が来日しました。

昨年、わくわく体験研修でスペインに行き、来日した音楽院生とも親交のある44回生を中心に、それぞれの家庭でホームステイを受け入れ、ホストファミリーとして生活を共にしました。

私の家には、私がスペインに行った時に、私を家族として受け入れてくださり、そして再会することを約束した友人である、ピアノ奏者のアレックスが来て、10日間、共に同じ食卓でご飯を食べたり、浅草や鎌倉などの観光に行ったりしました。

中でも印象的だったのは、音楽を通じて、多くの人との交流を深めた2日間です。東京の四ツ谷にある、スペイン文化会館でコンサートをしたときには100名を超えるお客さん観客の前で、44、45回生と一緒に手話合唱を披露しました。また、その次の日には附属幼稚園で、在学生と共にコンサートを行い、言葉の壁を越えて、音楽という一点で、より交流を深めることができました。(コンサートに参加された、見に来られた明德生も多くいましたね！)

私は、一人のホストファミリーとして、そして友人として共に過ごした、10日間というわずかな時間を忘れることはないと思います。この素晴らしい交流が今後も続き、その交流の輪が、多くの学生に繋がることを願っています。

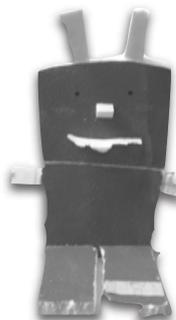


スペインの人たちと過ごした日々

渡邊 真衣（2年）

私は2人のスペインからの学生二人（兄妹のアレハンドロとネイラ）を我が家で受け入れました。たった1週間程でしたが、一言では言い切れない程、すごく沢山の良い思い出を作ることができました。

「どうしたら日本が楽しかったと思ってもらえるか」と、家族で何度も話し合いました。彼らの喜んだ表情を見るたびに、「日本をもっと知って欲しい!」という気持ちが高まり、日本ならではの料理を食べたり、浴衣を着て花火大会やお祭りに行ったり、お台場・秋葉原等の観光等様々なことをしました。途中ハプニングが起きたり、2人からのサプライズがあったりと、1日1日とても濃い日々を過ごすことができ、彼らを受け入れたことに大きな喜びや感動を覚えました。今は彼らと毎日インターネットを通じて連絡を取っています。9月のわくわく体験研修が今から待ち遠しくてたまりません。



私（田中）も高森先生と共に、10日間17歳の学生と過ごしました。私たちにとっては当たり前の生活の仕方や風景も、彼女にとっては当たり前ではなく、毎日が質問の嵐で、その質問に答えながら、改めて、自分たちの生活や文化について考えた日々でした。また、今のスペインの社会情勢や失業率の高さから、彼女自身も海外での就職を考えていること、しかしそれに対する家族からのプレッシャーや将来に対する不安といった若者の悩みを聞きました。異文化にふれることで見だせる驚きや発見の多い日々で、このような出会いに感謝です。スペインにFWに行った学生たちの体験を聞くことを楽しみにしています。たくさんの感動と発見を願って！



スペイン便り

小林 夢子 (卒業生：43回生)

¡Hola! ¿Qué tal estáis?

私は在学時「わくわく体験研修 スペイン」の第1回目に参加し、サンタンデルという場所に行きました。そこで感じた人の温かさ、素敵な空間に出会い、もう一度行きたいと強く思い、2014年3月に卒業してから1年間は障害児施設で働いて資金を貯め、今年の7月からサンタンデルで過ごしています。今回は、半年間のショートビザで、友人の知り合いの家にホームステイをさせてもらっています。

今は、午前中は学校へ行き、スペイン語を勉強しています。午後や休日はホストファミリーとプールや買い物、友だちと少し離れた街に出かけておしゃべりしながら景色を楽しんだり、パーティーをしたりと、充実した時間を過ごしています。また、一人で買い物をしたり、公園を散歩するのも、色々な発見がありとても楽しいです。会話はまだまだ思うようには出来ませんが、快く受け入れてくれる人たちと大好きな街に感謝と感動の日々です!!



小林さん：写真中央



週末は、特に心が潤います。ついこの間の土曜日は(編注*8月末)、友だちと車で少し離れたビーチに行って海に入ったり、散歩したり、ビーチでサンドイッチを食べてのんびりしたりし、それから夜は花火を見に行きました。最初は、ただただ楽しく見ていたのですが、隣にいる友だちが視界に入るようになると「私は今、大好きなサンタンデルで、大好きな友だちと一緒にこの綺麗な花火を見てるんだ...。」という思いが溢れてきて、とても嬉しくて、感動して涙が出てきました。さっきまで笑っていた私が、突然泣いているので友だちは凄く驚いて「どうしたの? ゆうこ!!!」って心配させてしまいました。でも、説明すると強くハグしてくれました。

そして日曜日は友だちが教会のミサに誘ってくれました。「カトリックじゃない私が、神聖なミサに行ってもいいのだろうか？」と迷ったのですが、せっかくのチャンスだと思い、行って来ました。牧師さん、ミサに来ている人たち、その空間が本当に神聖で、どのような話をしているのかはわかりませんが、心にじわじわと染み渡って来ました。そして近くの人と握手やキスの挨拶をする歌があり、友だちとの握手や、とても良くしてくれている友だちのお母さんとキスの挨拶をしました！その後、友だちのお母さんが私を後ろから抱きしめてくれた時、「こんな私を受け入れてくれているんだ...」と実感し、今まで我慢していた涙がいきなり溢れました...

ミサ中は、友だちのギター伴奏と歌もあったのですが、これもとても素敵で感動して、涙が止まりませんでした。彼女はプロのギタリストでもプロの歌手でもありませんが、私にはどんなに上手いギタリストや歌手よりも美しく、感動しました。

隣にいた友だちが泣いている私を見て肩を抱き「またゆうこが泣いてる!!」と優しく笑い、そんな友だちにまた泣く私です...

今書きながら思い出しても涙が出てきます。私は幸せ者だと実感しています。読んでくださり、ありがとうございます。



前号でお伝えした通り、スペインにいる卒業生からのお便りを紹介しました。また、次ページからは、与論島にいる卒業生からのお便りを紹介します。他の卒業生もそうだと思いますが、ふたりも、これまでの道りは決して平坦なものではなく、自分が「幸せ」「満足」だと感じられる「今」を、努力してつかみとったように思います。彼女たちが、そして学生を始め多くの人が、自分を「幸せ」だと感じられる世の中を願います。(田中)

与論島便り

白川 未於（卒業生：40回生）



スペイン便りに続き、今年6月から鹿児島県の与論島（鹿児島県といっても沖縄のすぐ隣の島です）に住む決断をした卒業生からのお便りを紹介します！

明德を卒業して4年以上が経ちました。私は卒業後、今年の3月まで千葉県内の保育園に勤めていました。そこでは、いろいろな家庭の事情を抱えている子どもと保護者の方に出会いました。日本の子どものあまり知られていない現状、核家族の現実や問題を知り、悩みながらもたくさんのことを学ばせてもらったと思っています。

そして今年の6月末から、鹿児島県奄美諸島の一番南、与論島という離島に住んでいます。一人暮らしは初めてです。来る前には家も決まっていませんでした。仕事も決まっていませんでした。でも、与論島に住むことは決めていました。

与論島に出会ったのは、去年の5月です。友人の提案による旅行でした。それまでは、与論島という名前も場所も知りませんでした。それが来てみると、海や星空はもちろん、空気、匂い、自然、人…全てが素敵に見え、私にとって魅力的なものがあふれていました。「ここに私は住むことになるかもしれない…」とその時ぼんやり思いましたが、まさか本当に住むことになるとは思っていませんでした。

しかし、その後も、あの島の人たち、空気、環境にふれたいと思い、旅行で2回訪れました。行くたびに、住みたい気持ちはどんどん大きくなるばかりでした。住まなかったら、「住みたかった」とずっと思っているだろう。違う決断をしたら、この先後悔するだろう。私は与論島に住みたい。住もう。住むんだ！ そう強く思う瞬間があり、3回目の旅行で島で暮らすことを決めました。

島に来てからは、旅行で毎回お世話になっていた民宿の方に、「お店のお手伝いをするので安く泊めてもらえませんか？」とお願いし、泊まらせてもらっていました。そして今は家も見つけてもらい、公立のこども園で臨時職員として働いています。

来た時は、絶対に保育士になろうと思っていたわけではありませんでした。でも、公園で裸足になって遊ぶ子ども、道で挨拶してくれる子ども、海に飛び込む子ども…そんな子どもたちを暮らしの中で見ているうちに、やっぱり保育士として働きたい、子どもたちと関わりたいと思い、再びこの仕事に就きました。



この園で働き始めてからは2ヶ月が経ちました。私が働いていることも園の子どもたちは、わがままです。甘えん坊です。生意気な子もいます。でも、すごく、すごく、子どもらしくわがまま、甘えん坊で、生意気です。そして、その子どもらしさを、先生方が消しません。ああ、先生たちの関わり方が、子どもらしさを消すことがないから、大人の都合のいい「良い子」を押し付けないから、子どもたちがこんなにも子どもらしくいられるんだなあ。と働いて知りました。



以前働いていた保育園で学んだ経験や知識が役に立っているという実感が湧く時があれば、あの時もこうしてみれば良かったのかもしれないと反省したり、もっとこうした方が良いのかもしれないと考えることも多く、学ぶことが今も続いています。また、同じところで長く勤めている保育者の方もいれば、違う職業から保育者になった方など、いろいろな方がいます。どこにいても、どんな先生や子どもからも学ぶことはあると改めて感じています。今また、保育士として新たな経験や知識を培っていきたいと思っています。

4年間勤めた園では、後悔なく精一杯やりきったと思えていたため、しばらくは別の仕事でもいいかもしれないと思っていましたが、こうして「保育士として」保育を通して関わりたいと思える子どもたちや先生、職場に出会えて、本当に今私は毎日が楽しい、良い選択をしたと思っています。

島での生活は、やはり旅行とは違うと思うこともあります。でも、島の良さや魅力をこれからもどんどん見つけていきたいし、そのような発見をしながら過ごしたい。苦しいことがあっても、一人の人間として、私は私だから、私らしく、自分に正直であり続けたいなと思います。

職業として保育士を選択したこと、与論島での暮らしを選択したことに、私は満足しています。でもそれは私だからであって、いつどんな時にどんなことを思うか、感じるか、考えるか、それは一人ひとり違うはずです。だから、学生の皆さんも、自分が満足する選択ができるよう、今あるたくさん考えられる時間、自分と向き合える時間を大切にしてください。自分で決めることが歳を重ねるごとに増えていきます。私は、自分で決めるのだから、後悔しないようまっすぐ選択し決断して過ごしていけたらと思っています。学生の皆さんもそんな選択ができることを願っています。

与論島、素敵な島なので、機会があったらぜひ来てくださいね。



保育実習Ⅱ（保育所）の挑戦

小久保 圭一郎



保育実習Ⅱ（保育所）では、今年度画期的な取り組みをしました、それは千葉「県外」、それも千葉から遠く離れた地域での「宿泊」を伴った実習です。

そうはいつでも、「県外」「宿泊」の実習はそれほど珍しいことではありません。一年次施設実習は、ほとんどの学生が宿泊での実習ですし、数か所ですけど千葉県外の施設で実習する学生もいます。

画期的なのは、これまで明德短大と深く関係を築いてきた保育園に実習生を送る、というところ（実は8年前にもこうした取り組みをしていました）。

その保育園は、沖縄県の「みどり保育園」と鹿児島県の「さとのもり保育園」。

後者のさとのもり保育園。僕は5年来のお付き合いで、毎年フィールドワークⅡ（生活と社会）＝わくわく体験研修でも学生たちと一緒に訪問しています。そんな関係で、今回はさとのもり保育園での実習について少しだけ紹介しますね。

この保育園、とっても居心地がいいんです。特にその居心地の良さを感じるのが、保育士たちの表情や振る舞いです。以前僕はこの月歩学歩誌上で、明德土気保育園の紹介をしました。土気保育園の保育士たちを僕は「機嫌よく生活している」と紹介しましたが、さとのもり保育園の保育士も同様なのです。加えて、保育士たちの保育には、一所懸命さの中にどこかクスッと笑ってしまうような可笑しみがああり、保育園の生活を一日中見ているだけでも飽きません。

そんなさとのもり保育園初の実習には、我がゼミ生の0さんが手を挙げてくれました。僕からみた0さんは、正義感が強く一所懸命な一方で、気を抜くということができず人に甘えをみせない性格です。周囲から誤解を受けることも多々あります。そんな0さんが、「さとのもり保育園」の保育士たちの姿をみて何を掴んでくるか？ 非常に興味があります。

僕が巡回指導に行った際には、「集大成の実習だから部分実習や責任実習をやった方が良いと思うが、子どもたちの伸び伸びした生活を崩してしまうことになるのではないか？」と葛藤し、0さんは涙を流していましたが…どうなることやら（保育士に相談すればいいのにね）。

保育士としての専門性を身につける目的であれば、県外で宿泊までして実習しなくても、それは達成できます。僕らが期待するのは、実習という枠をこえて保育園の生活すべてにどっぷりと身を浸すことです。そのことでありのままの自分がみえてくる。そしてそれを受け止めてくれる大人がいる。豊潤な生活体験の中で、その学生がブレークスルーを起こすことだって、ないわけじゃない。

この取り組みは、こうした明德短大の考え方をよく理解してくれている保育園の存在がなければできないことです。今回のような、これまで関係を築いてきた県外の保育園に宿泊実習するという取り組み、これこそが明德短大の「どこにも真似できない（今のところ）」個性だと、僕は思います。その個性とはつまり、保育・福祉現場と協働しながら保育士を養成する、ということに尽きます。その個性の内実を、僕らはしばらくの間忘れていたのではないのでしょうか（この取り組みをしている養成校はたくさんあります。でもそのほとんどが実現できていないように思います。私見で恐縮ですが）。何より僕自身が忘れていました。

高校生からよく言われる「明德短大は教員と学生の距離が近い」。それは個性でもなんでもありません（規模の小さい養成校はほとんどそうなるはずだから）。

明德短大のことをよく理解してくれる現場を助け、彼らと協働しながら学生、保育士を育てる。このことが明德短大の個性であり、プライドなんだと、僕は改めて思うのです。だからこそ、今回この取り組みを8年ぶりに復活させたのでした。

*保育実習Ⅲ（施設）でも同様に、隠岐の島にある仁万の里で「県外」「宿泊」の実習を行なっています。こちらはフィールドワークⅡ（生活と社会）で、昔から明德と協働して下さっている施設です。



➡ 保育室の壁新聞に取り上げられています。

卒業生（43回生）で、現在「さとの森保育園」で保育士の稲毛さんと。 ➡



最後の 実習・実習事後指導♪

2年生は8月～9月にかけて、明德での最後の実習《保育実習Ⅱ・Ⅲ（保育所・施設）》に行ってきました。下の写真は、実習後に学校で行われた実習事後指導の様子です。

2年生の皆さん、最後の実習・実習事後指導はいかがでしたか？ 全ての実習を終えた今、立ち止まってこれまでをゆっくりとふりかえる人、さらなる実習を求める人、いろいろな人がいると思いますが、これから始まる就職活動に、また、半年後に迎える卒業に向けて、この日は一つの区切りになったのではないのでしょうか。



「月歩学歩学生委員」 ページ

今回は、授業「社会福祉」の一環として、また、2月の保育実習Ⅰ（施設）の事前訪問を兼ねて、1年生が行った施設ボランティアについて紹介します。さらに嬉しいことに、今回から新しい委員が増えました！

！新メンバー！



安部 あすかさん（1年）

今号から「月歩学歩」の編集をお手伝いすることになりました。学校に入って、自分から何か積極的に行いたいと思っていた時に、この編集委員を知り、私も手伝いたい！と思いました。高校時代、美術部に入っていたので、考えてつくりあげる作業が好きです。2年間という貴重な期間で、学ぶことをまとめられるように頑張りたいです。

「社会福祉」ってどんな授業？

「社会福祉」は1年次に開講されている授業で、福祉の社会的仕組みや制度を学び、福祉を必要とする人たちを知り、その上で私たちはどうしたらよいのかを考えてきました。

これまでに、福祉を必要とする人たちはどのような人で、日常生活でどのような体験をしているのかを学びました。体の不自由な方や心身障害などの障がいを持った方、ホームレス、人権差別、生活保護、出生前診断などについても詳しく学び考え合いました。他にも、ビデオを見て、障がいや差別について考えました。

また5月の「障がい者スポーツ大会」でのボランティア活動を通して、実際に障がい者の方と触れ合いました。

今まで知らなかったこと、気づかなかったことを知り、自分だったらどうするか、どう接するのか、と様々な立場を考え、福祉に対して今まで以上に意識が高まりました。

今回は2月の保育実習Ⅰ（施設）に向けた事前訪問として、夏休みの間にボランティアをさせていただきましたので、その時のことについて私たちから報告します！



施設にボランティアに行くまでは、施設に対して少し怖いイメージを持っていました。そのため、ボランティアに行くことにためらいがありました。

しかし、実際に行ってみると、施設で働いている職員の方も、利用者の方も、とても明るく、楽しそうに過ごしていました。利用者の方は、作業に生きがいを持ち、皆一生懸命働いていました。私は、予想していたものと全く違う雰囲気だったので驚き、行く前に勝手にイメージをしていた自分がとても恥ずかしく思いました。（栗山 恵里奈）



社会福祉という授業を通して、障がい者の人に対する「怖いな」という気持ちがかかなりなくなっていたので、私は今回のボランティアに参加することに抵抗はありませんでした。行ってみれば、皆さん気さくに話しかけてくれて、明るい現場でした。このボランティアで知れたことは、「みんなできることがある」ということです。一人ひとりの能力や適性に応じて配属される役割が違い、自分の割り振られた仕事をきちんとしていました。（鎌田 春華）

私は、授業だけではなく、実際に行ってみたからこそ、思ったこと、感じたことがあります。

これまで私は、施設にいる障がい者の方たちは、常に介護されているのかと思っていました。しかし行ってみると、全然違いました。障がいを持っていても仕事の時は切り替えができることや、障がい重度の人の作業を軽度の方が手助けすること、施設にいる人全員が静かに丁寧に助け合って作業している姿を目の当たりにしました。また、仕事以外の時間は、自分たちの家として、クラブ活動をして楽しい時間を過ごしていました。様々なスポーツをしていて、一緒にいる時間は、彼らが障がい者だということを忘れていたくらい、熱中していました。授業を受けていただけではこのようなことには気づけなかったと思い、ボランティアに行ったら良かったと思いました。（岩井 凜）



私は心身障害福祉作業所というところに行き、心身障害を持つ方と一緒に、作業所でお菓子の箱作り、チラシの仕分け、付録の袋詰めなど、それぞれの方の能力に合わせた作業を行いました。休憩中は皆、積極的に話しかけて下さるほど明るく元気な方たちでしたが、作業が始まると、仕事なので一言も話さず黙々と作業を行っていました。

私がお菓子の箱詰めの最中に、部品がなくなりどうしようかなと思っていたら、対面にいた方が、無言で自分の部品を分けてくれました。その方とは、普通に話しかけても会話が難しいのですが、困っていた時に助けてくれたこの行動から、心がつながったように感じました。（安部 あすか）

皆さんはどうでしたか？
皆さんの体験も聞けることを楽しみにしています！





! hot news !

new movements of this month in meitoku
! 今月の明德速報 !

フィールドワーク | 「芸術という分母～スペインの文化に触れて」
明德の学生がスペインの新聞で紹介されました!

Peñacastillo. 39011 Santander - CANTABRIA | comercial | deportes | mundo | sociedad | ALERTA | alertafr



Alumnos japoneses que participarán en el programa de intercambio cultural. / ALERTA

SIETE ALUMNOS JAPONESES PARTICIPAN EN UN NUEVO INTERCAMBIO CON ESTUDIANTES DEL CONSERVATORIO ATAÚLFO ARGENTA

Cantabria y Japón inician su tercer encuentro cultural

ALERTA / SANTANDER

Siete alumnos japoneses de la Universidad Meitoku, de la localidad de Chiba, cerca de Tokio, llegarán mañana a Santander para participar durante una semana en un nuevo

diferentes maneras de ver y sentir que contribuyan a su enriquecimiento personal y a la mejora permanente de la calidad educativa». Para ello, durante su estancia en Santander los alumnos japoneses compartirán diferentes acti-

Gen Akashi. La representación cántabra estará formada por los profesores del Conservatorio Javier Canduela y Javier Laboreo, y por los alumnos Carolina Sáiz, Patricia Martínez, Iván Escudero, Cristina Diego y Sofía Sánchez. Tam-

MÉNDEZ VI ESPAÑA EN

El ministro d Méndez de V en Expo Mil: el planeta, e finales de oc rrer el pabel comunicaci satisfacción perado las e dos millone ra de la Exp

JOLIE PIDE ACABAR C

La actriz esta ció ayer en u co que estud en zonas de c inician «acci Jolie, enviad ONU, manife su Gobierno p a la violencia

皆さんのわくわく体験研修の報告も楽しみにしています!



MEITOKU SNAP !GAKUENSAI SPECIAL!



MEITOKU SNAP



後期が始まり、学校に活気が戻ってきました！
さて、夏休み突入直後、大工サークルがウッドデッキを製作しました！ 正門横のお庭にあります。木陰でのんびりしに一度訪れてみてはいかがでしょうか？

明德の10月

9/16～（1年生） 9/24～（2年生）

▶ 後期授業開始

10日（土）+24日（土）

▶ 入試面談・公開授業

15日（木）

▶ 保育実践研修会

16日（金）+30日（金）

▶ 研修生スクーリング

18日（日）

▶ 保護者会

31日（土）

▶ 第55回スタバお話しライブ



編集後記

皆さんはどのような夏を過ごされましたか？ 2年の皆さんは学校生活が残り1/4になり、就職という選択と決断が近づいていますね。今回は、スペインや与論島、鹿児島といった、千葉県外での話を取り上げて紹介しましたが、生まれ育った地元で輝いている卒業生もたくさんいます。地元ではないけれど、千葉県内で積み重ね信頼されながら働いている卒業生もたくさんいます。次号では、さらにさまざまな卒業生の様子をお伝えする予定です。こうやっているんな人に出会い、卒業後もそれぞれの道を歩むいろいろな人生に出会えていることに、心から感謝しています。そして、卒業生の小林さんが今の自分を「幸せ者」と感じ、白川さんが自分の選択に「満足」しているように、読者の皆さま一人ひとりが、幸せで満足いく自分の人生を送ることを願っています。（田中）

★INFORMATION★

明德HPの「めいたんブログ」でも、明德の「今」を日々発信しています。ぜひご覧ください。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明德短期大学
千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

鶴田 真二



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せください。